

紀要特別号の刊行に寄せて

札幌学院大学人文学部長
人文学会長 中野 徹 三

1997年は、札幌学院大学人文学部が本道最初の人文学部として誕生して以来、ちょうど20周年にあたる。本学部は、こうして今、成長期から成人期に入った、といえる。

本学部開設20周年を記念して、意義深い研究教育上の事業をという気運が高まったのは、95年前後から、であった。

そしてそのひとつの成果は、本学部を構成する二つの学科、人間科学科と英語英米文学科が人文学会と協力して刊行した人文学会紀要上の二つの特集号（「人間科学の現状と課題」、第60号、1997年3月刊ならびに「英米の言語と文化」第62号、1998年3月刊）の刊行であり、共に学会員以外の方々のご寄稿も頂き、充実した内容のものとなっている、と私たちは自負している。

この二つの特集号に続き、この紀要特別号は、私たちの学部20周年を記念して昨年秋に開かれた二つのフォーラムとシンポジウムの、ほぼ逐語的で完全な内容を読者諸氏に提供しようとするものである。

9月13日と14日の両日にわたって、本学において第3回フォーラム「人間科学を考える」が開催されたが、このフォーラムは、人間科学の研究と教育を広く議論し、学問的に深化させることを目的として、人間科学部をもつ全国の8大学が呼びかけ人となって1995年から始まったものであるが、全国で3番目に生まれた本学部人間科学科の20周年を記念して、ここに本学で開かれることとなった次第である。

第一日目に、私たちのお願いに応じて行われた北海道大学総長丹保憲仁氏による記念講演「文明の転換点に立って——人間科学への私の提言」は、環境衛生学の国際的権威の視野に立脚し、自然科学と人間科学の古い伝統的な境界を遥かに超越した地点からの世界システムと文明、科学と倫理の新しい根源的な再構築の必要を壮大な世界史的スケールをもって論じられたものであって、多くの聴衆に強い感銘を与えられた。以後、氏の講演内容の公刊について各方面から問い合わせが寄せられたが、ここに氏のご快諾を得てその全容をご紹介できることは、私たち人間科学の研究者にとっても、また人間科学と自然科学の今後の現代的交流の必要を痛感されている多くの人々にとっても、大いに慶賀すべき事柄といえよう。ご多忙の中でこの講演をお引き受け下さった氏のご好意に対して、改めて心からの謝意を申し上げたい。

フォーラムの第2日目には、11大学からの37名の人間科学研究者の参加があった。2日間にわたり、延べ69名の研究者・市民・学生の皆さんが参加され、興味深く熱心な報告と討論が続けられた。

続いて10月18日には、本道でもっとも長い伝統を有する本学部英語英米文学科が、やはり学部20周年を記念してCALL一般公開・講演会・シンポジウムを開催した。北海道で初の本格的なCALL（コンピュータ活用英語学習システム）の公開には、道内の大学・高校からも多数の教員諸氏が出席され、またジョアン・マコーネル博士（スタンフォード大学）の講演「ポータレス時代における世界語としての英語」と、3名の著名な英語学者を招いてのシンポジウム「変貌する英語学習環境とコミュニケーション」も、参会者に多大の知的刺激と、新たな視野とを提供してくれた。この場をお借りして、ご多用中にもかかわらず私たちのこの二つの学門的企画に応えてご講演・ご報告の労を執って下さった諸先生、参会された皆さんに重ねて感謝の念を表させて頂くとともに、大学を超えてのこうした学的営みが今後ともますます発展することを、心から祈念する次第である。

最後に、この特集号の完成のためにご苦労された人文学会幹事長北爪真佐夫氏、第3回フォーラム実行委員長奥谷浩一氏、人間科学科長廣川和市氏、英語英米文学科長宮町誠一氏はじめ学部関係者諸氏に、謝意を記させて頂きたい。